

巻頭言

理事長 高崎 和美

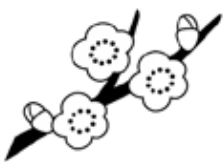
あけましておめでとうございます。おめでとう、と言ってよいのか迷いますが、それでも何かに区切りをつけて新しく始めるチャンスなのでしょう。だれもが安心して暮らせる福祉を目指して行政を見守り、提言するという目標を、改めて確認するお正月です。

さて、2021 年度の福祉オンブズおかやまの活動は、コロナに翻弄されながらも、定期相談活動（毎週日曜日 10 時から 15 時）と会報発行に加えて、従来の福祉オンブズ相談員養成講座に代わって新しく一般市民に開かれた ZOOM での「福祉オンブズカフェ」（2 か月に 1 回、月終わりの土曜日朝 10 時を予定）と立ち上げました。非接触型で安心！出入り自由、伸び伸び発言し、お互いに刺激をもらえる場として発展しそうです。

また、2020 年度から着手した、介護保険事業に関する調査研究（岡山県内自治体の「実地指導」の実態調査）の結果分析と発表の準備が佳境に入りました。3 月 19 日（土）にオンライン配信方式により一般に向けて発信予定です。

本年度も残すところ、3 か月。市民に向けての発信と、個別相談事案への対応を地道に進めていきます。

ところで、活動方式はどんどん若返っているにもかかわらず、会員の高齢化は止まりません。どうか、お知り合いで福祉関係に興味がある方、ご家族に高齢者・障害者がいる方など、年齢にかかわらず会員にお誘いください。一緒に活動しましょう。よろしく願います。



人権相談 受付中！

電話による相談は、毎週日曜日午前 10 時から午後 3 時まで。当法人のホームページからメール相談も受け付けてます。当法人の相談員が福祉サービスでの人権問題を一緒に考えます。

TEL : 080-2885-4322 ホームページ URL : <http://f-onbuzu.com/>

E メールアドレス : f.ombuds.okayama@gmail.com

始まりました！ 定期開催！

「福祉オンブズカフェ」

～ゆるく、楽しく、なんだかホッとする会合です～

オンラインは苦手、という会員の方、これを機会に、ZOOM を始めてみませんか。インターネットで、「ZOOM ダウンロード」と検索して、アプリをダウンロードするだけで、さまざまなオンラインイベントに手軽に参加できるようになります。操作はほとんどクリックだけで完了します。

福祉オンブズおかやまでは、毎年秋に「福祉オンブズ相談員養成講座」と銘打って、福祉の相談が来たときに対応できるような知識を得られる講座を実施してきました。しかし、コロナの影響もあり、昨年度はとうとう参加者が役員以外は1名という非常に寂しい状態になっていました。

会員の方も一般の方も、「福祉オンブズ相談員養成」と聞くと、相談員にならないといけないのではないかなどと、やや不安に思われていたのではないのでしょうか。しかし、講座の目的は福祉について学ぶこと。そこで、コロナ禍でも、非接触で安心して有益な時間をもてるイベントとして、オンラインによる「福祉オンブズカフェ」を9月から始めています。奇数月の最後の土曜日が定例です。

9月24日の第1回は、当法人の監事である社会福祉士今岡清廣さんから、成年後見制

度について、どのような経緯でできてきたか、現在どのようなことが求められているのかについて話題をいただき、9名で語り合いました。お互いに小さい画面しか見えないけれど、思いつくことを語り合い、「本人さんがどない思っているか！」が一番大切、という50年くらい前の知的障害者施設 びわこ学園園長の言葉に、高齢者・障害者福祉の原点を思い出しました。

11月27日の第2回は、玉島協同病院医師で訪問診療を積極的に行っている医師の清水順子さんから、訪問診療の最前線の話を提供いただき、それぞれが在宅介護についての思いを出し合いました。病気や障害をもってもその人らしく生きられることの大切さと難しさを感じつつ、でも医療・福祉に関して希望は捨てないでいいのだと思えました。

1月29日に開催した第3回では、西粟倉村で「ローカルモビリティ」問題に挑戦している社会福祉士の猪田有弥さんに、いくつになっても動くことを楽しめる社会をめざす試みを語っていただきました。この時は12人の参加でした。運転免許を返上した後も安心して暮らせる社会を作るという課題に、まさに現在進行形で挑戦している体験が聞けました。

始める前には、「いったいどんな情報をだれがだれに届けるのか」「参加する人にとって何がメリットなのか」「オンブズの目的の関係はどうなっているのか」など、わからないことだらけでした。しかし、福祉をよいものにしていく責任は行政にあり、その行政を見守り、行政に提言し、時には苦情申し立てを支援する、という福祉のオンブズ活動を少しでも多くの方に知っていただき、ともに考えることで、福祉オンブズの活動を広げていく、広げるためのチャンス、という考えは、案外よろしいかも、と思うに至りました。

この「福祉オンブズカフェ」の一番のおすすめポイントは、いつも楽しい雰囲気であること。重い話題、しんどい話題も、それを語るからと言って語り手が重くしんどくなる必要はなく、むしろ語り、問いかけ、聞いて知っていくことで、参加したみんなの気持ちが前向きになれると実感しています。

第4回（3月26日（土））は当法人の理事

で、長年ケアマネの仕事をし、退職後も高齢者・障害者への個別の支援に関わり、当法人でも中心となって活動している猶原真弓さんに、体験に基づく話題を提供していただきます。また第5回（5月28日）は、長年障害者支援の現場で活躍し、その後精神科病院でケースワーカー、それを退職した後も障害者支援の実践を続けている社会福祉士の間島泰正さんを話題提供者に予定しています。

皆さんは、どの分野に興味をおもちですか？これを機会に、ぜひ ZOOM を使って福祉オンブズカフェにご参加ください！お申し込みは当法人のホームページから。福祉オンブズカフェの案内記事の最後の「続きを読む」というところをクリックすると、詳細説明と申込みの画面が出てきます。氏名とメールアドレスを入力して送信するだけ。ぜひどうぞ。
※テレビ電話方式ですので、マイクとカメラが付いたパソコンが必要になります。

（文責：理事長 高崎 和美）

オンライン福祉オンブズカフェのあゆみ

- 第1回**(2021年9月25日(土)10時00分～11時30分)
テーマ：成年後見制度
話題提供：今岡清廣さん（社会福祉士）
- 第2回** (2021年11月27日(土)10時00分～11時30分)
テーマ：在宅医療を語ろう—100件の往診をする医師に聞く悲喜こもごも—
話題提供：清水順子さん（倉敷医療生協 玉島協同病院 医師）
- 第3回**(2022年1月29日(土)10時00分～11時30分)
テーマ：いくつになっても「動くを楽しむ」ことができる社会を目指して—地域福祉の観点から、寄り添いのありかたを考える
話題提供：猪田有弥さん（にしあわくらモビリティプロジェクト代表・社会福祉士）

これからの予定

- 第4回**(2022年3月26日(土)10時00分～11時30分)
テーマ：未定
話題提供：猶原真弓さん（当法人理事）
- 第5回**(2022年5月28日(土)10時00分～11時30分)
テーマ：未定
話題提供：間島泰正さん（社会福祉士）

※申込は、メールか、当法人ホームページ上の申込フォームよりお願いします。
オンラインによる参加にご不安な方は、当法人事務局までご相談ください。

リレーコラム 第23回

今回のリレーコラムは、理事の猶原真弓さんです。今回は映画をテーマにしたコラムになります。この映画を「多くの人に観てもらいたい」との思いは、長年医療福祉現場に携わってきた猶原理事の経験が基盤となっています。社会派の映画を撮られることで知られている瀬々監督※の作品です。今（2022年1月）は、上映している映画館は岡山県内にはありませんが、機会があれば見てほしいと願っています。

※瀬々敬久の近年の作品

64-ロクヨン-前編/後編（2016年）監督・脚本

8年越しの花嫁 奇跡の実話（2017年）監督

楽園（2019年）監督・脚本

映画「護られなかった者たちへ」を見て

理事 猶原 真弓

ドラマ「天皇の料理番」より、佐藤健のファンになっていたもので、見たいと思っていた映画でした。どっこい、見ると、かなり考えさせられる内容でした。

東日本大震災の被災地と生活保護の問題が絡みあって、胸に深く刻まれた作品でした。被災地での避難所の様子は、真備の避難所での様子を思い浮かべながら、日本の避難所の劣悪さに怒りを。明治時代と現代の避難所の写真が、全く同じなのはどれだけの方がご存じでしょうか？

東日本では、真冬。真備では真夏。熱気の体育館に総理が来るとの一報でクーラーが付いた。1人1畳の空間に、文句を言う人なし。毎日冷たい弁当の配布に整然と並ぶ被災した人たちの姿。津波で大切な人を亡くし、行き場を無くした人たちが心を寄せあう、つながり・絆。監督が、「人間はどんな所でも生活を営み生きていく、そんなことの象徴として避難所での出会いとした。」と。

この映画の根っこは「共感」だと監督さん。今、社会がすごく分断されている。特にコロナ感染での分断は辛い。立場が違っていても共感できるか否か。日々の暮らしのなかで、私たちはどれだけ周囲に共感できているのでしょうか？

監督が狙う、「共感の連鎖」が自己責任という分断社会の中で覆しているだろうか。

生活保護の問題では護られなかった者たちに「声をあげてください」「どうか声を上げてください」との、メッセージ。佐藤健扮する青年が「死んでいい人なんていないんだ」の声は、心に響いた。

生活保護の申請が認められず餓死した「大切な人」をめぐる、映画のようなむごい事件が現在も起きています。そこには、憲法に保障された当たり前の権利が損われている現実がどれだけ知らされているか。

「生活保護は国民の権利」と、いわれながら、学ぶ機会もなく、窓口で追い追い返され、偏見や差別にさらされる人もいる。

生活保護申請に対しての扶養家族への照会は大きな障害になっています。映画の中でも、扶養照会の残酷さを鋭く照らしています。

今、長引くコロナ禍で困窮者がひろがり、生活保護申請数もふたたび増加している。

生活困窮者を支援する団体のメンバーは、相談活動で「まず、相手を尊重することから始める」と言われます。生活保護が必要な人に全て利用できる制度に。そして、申請の門前払いや扶養照会をやめ、命が理不尽に奪われることがないようにしてほしい。

東北震災は、本当に私たちの考えや行動を変えさせました。3・11のテレビでの映像は、10年経っても、忘れられない光景です。

あの震災時に起きたくらしの不安。大切な人達を亡くした苦しみ。何もできなっと思いう後悔。原爆投下や戦時下をも含め、災害を経験した多くの人たちは、「大切な人を、助けられなかった」ことへ、苦しみ続けています。

そして、制度は、どう生かされたか。私たちは、どう生かそうとしたか？

コロナ禍の2度目を迎えた年末年始での、「派遣村」の食事提供に100人が並んでいたとの記事。岡山でも若者への物資提供に長蛇の列の写真に、自助・共助だけでは今、くらしは護られていない。

今こそ公助が生かされる時だと思う。それを生かすのも、私たち一人ひとりの役割かと思わされた映画でした。

護られなかった者たちへ

監督 瀬々敬久

脚本 林民夫、瀬々敬久

原作 中山七里

出演者 佐藤健、阿部寛、清原果耶、林遣都、永山瑛太、緒形直人、吉岡秀隆、
倍賞美津子

音楽 村松崇継

配給 松竹

公開 2021年10月1日

製作国 日本

特定非営利活動（NPO）法人 福祉オンブズおかやま 第9回定時総会について

平素は弊法人活動に多大なるご協力をいただき深く感謝申し上げます。

本年も特定非営利活動（NPO）法人としての定時総会を下記の日程で開催いたします。会員の皆さまには、ご多忙中恐れ入りますがご総会成立と議決に協力をいただきたく存じます。

昨年度、一昨年度と新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から会場出席形式開催とは異なる方法をとらせていただきました。今定時総会の開催形式については未定ですが、総会開催直近の状況に合わせて安全な方法を検討してまいります。4月の会報送付の時期に改めて開催方法につきお知らせいたします。

現在予定している内容につき、以下ご確認ください。書面表決でも出席表決でも、定款に基づき、総会成立のため定足数を充たす参加者が必要です。4月のご案内の後、定時総会への参加あるいは意思表示いただけますよう、よろしくごお願い申し上げます。

記

日時：2022年5月29日（日）10時00分～12時40分

- ・定時総会 10時00分～11時00分
- ・記念講演 11時10分～12時40分

※定時総会、記念講演の時間帯は予定です。

場所：きらめきプラザ内ゆうあいセンター研修室

※対面開催の場合の予定会場です。

記念講演：講師調整中

議案：

1. 2021年度 活動報告
2. 2021年度 決算
3. 2022年度 活動方針案
4. 2022年度 予算案
5. 第5期 役員改選案

以上

2021 年度人権福祉講座

知っておきたい岡山の「実地指導」実態

今回の人権・福祉講座は、「令和3年度 岡山市人権啓発活動補助金対象事業」として開催されます。

日時：2022年3月19日（土）10時から11時30分

場所：オンライン実施（ZOOM 会議方式）

参加費：無料（報告書をご希望の方は、別途で資料代および送料600円が必要になります）

※参加申込は、メール等で当法人にお知らせください。

例年この時期に行っている人権福祉講座。今年度は、久々の調査研究発表です。福祉オンブズの原点に戻り、行政が責任をもって、福祉サービスの質の確保をしているといえるのかどうか、県内すべての自治体にアンケートを行いました。その結果を分析して発表します。

介護保険制度が始まって早や20年。民間事業者が担ってきた介護サービス。そのサービスの質が確保されているのか、また適正に運営されているのか、また法令遵守はできているのか？このような点について、行政が事業所に対する指導監査業務の一環として、施設を実際に訪問してチェックするのが「実地指導」です。

利用者や家族がお世話になっている施設に、また介護現場で働く人たちが雇い主に対して、直接声を上げることは困難です。そのために、行政の実地指導が、介護サービスの質を確保するためには、とても重要となります。

その実地指導の人員体制や運用は充分なのか。実際に実地指導をしている行政担当者から集めたアンケートから見えてくることは何か。実地指導が十分な成果を上げていない部分があるとすれば、何をどうすればもっと成果が上がるのか、調査結果とその分析結果を聞いて、一緒に考えてみませんか。一般公開ですからぜひお知り合いをお誘いください。

昨今のコロナ感染拡大の状況を考慮して、以下の通り実施いたします。ご自宅からも参加可能ですので、どうぞご参加ください。（ご発言される場合には、ご自分を移すカメラと声を採取するマイクが必要ですが、視聴されるだけでしたら、通常のパソコンで参加が可能です。）

参加方法：

福祉オンブズおかやま（メールアドレス f.ombuds.okayama@gmail.com）にメールにてお申し込みください。題名に「人権福祉講座申込み」とお書きください。お名前とメールアドレスを本文に入れて送信してください。

後日、ZOOM ミーティングの URL 送信いたします。

印刷製本を要望する旨もお書きください。資料代支払方法は個別にお知らせします。

会員の皆様へ オンラインコミュニケーションのすすめ

この2年ほどの間、私たちはコロナ禍の中で自由に人と会うことができず、多くのつながりの機会を逸してしまいました。ですが、その中でオンラインコミュニケーションがかなり浸透してきました。

そこで、簡単にオンラインコミュニケーション・・・、特に「ZOOM（ズーム）」について説明します。

ZOOMは、パソコンやスマートフォンを使ってお喋りができるオンライン会議（リモート会議）ツールです。基本的に無料ですが、Wi-Fi環境があると、よりスムーズに利用することができます。

必要なもの：パソコン（カメラとマイクのついたノートパソコンがベスト！）スマートフォンでもOKです。カメラとマイクが付いた端末であることが条件です。（別売りでも可）Wi-Fi環境がなければ通信量が高くなる可能性があるので注意！

1. まずは、ZOOMのアプリをダウンロードします。

ZOOMのアプリをダウンロードする手順は、インターネット上に書いてあります。

正常にダウンロードをしたら、基本的にOKです。パソコンのカメラとマイクが使えるかも確認してください。

2. 例えば福祉オンブズカフェに参加しようと思ったら・・・

当法人にメールや申込フォームを使って、「参加したい」と伝えてください。そのあとに、ZOOMの会議室（この場合は、「福祉オンブズカフェ」）に入るための直通の入り口となるURLと、会議室番号になるミーティングIDと鍵となるパスワードが送られてきます。

今回は、URLを使って入ってみましょう。

3. 約束の時間の前にパソコンを立ち上げる

パソコンが安定して動作できるように、福祉オンブズカフェの時間前に起動させておいてください。

当法人から送られてきたメールのURLをクリックしてください。ZOOMのアプリが入っていれば、自動的にZOOMのウィンドウが立ち上がります(図1)。途中、

いくつかのウィンドウが出ますが、全部「はい」と答えてください。

晴れてZOOM会議室に入ることができます。

4. 会議室に入ったら、ミュートとビデオに注意して！

ZOOM会議室に入ったら、あなたの姿や声が全員に見えたり聞かれたりすることがあります。自分のZOOMの画面の左下にある「ミュート」と「ビデオ」の個所に斜線が入っていれば、大丈夫です。

実際に福祉オンブズカフェが始まったら、「ミュート」を解除して、「ビデオ」を開始してください。あなたの画面の中にいる人たちは、あなたの姿や声を聴きながら会話に加わってくれます。

5. もし分からなかったら、司会者に尋ねてください

ZOOMの司会をする人は、ZOOMの操作に慣れていきます。困ったことがあれば、その人に尋ねてください。

よくあるのは、「自分の画面の名前表示を変更できない」があります。画面の中の人たちは、あなたの画面のわきにある名前を見て声をかけます。でも、そこに単に「iphone」と書かれていることもあります。「その名前を変えてください」と言われても分からないときは「分かりません」と言ってください。司会の人が変わってくれます。

そんな体験をしながらオンラインコミュニケーションに慣れていってもらえればと思います。

6. さいごに

私は大学で教員をしていますが、私の職場のまわりの地域の高齢者はオンラインコミュニケーションを使い慣れています。コロナ禍になってから、スマホやZOOMの使い方を習う教室を私たちが展開していききました。その結果、かなりの方がチャレンジしてくれるようになりました。

あくまでオンラインコミュニケーションは代替手段だと考えています。ですが、こんな緊急事態のときに助けになるのも確かです。ぜひ、この機会にオンラインコミュニケーションにもチャレンジしてみませんか？

文章：藤井 宏明（副理事長）